

平成 30 年度

第 1 回在宅医療・介護連携推進協議会

会 議 録（要旨記載）

日時：30 年 7 月 5 日（木）午後 1 時 30 分～

会場：湖西市健康福祉センター3 階

小会議室

1 出席者

委員

伊 藤 健 (浜名医師会)
牛 田 知 宏 (浜名医師会)
藤 田 周 子 (湖西市医会)
尾 崎 宏 嘉 (浜名歯科医師会)
塩 野 州 平 (浜松市薬剤師会)
内 山 大 輔 (介護老人保健施設まんさくの里)
鈴 木 織 江 (浜名病院地域医療連携室)
夏 目 志津子 (市立湖西病院在宅支援室)
白 井 寿 子 (訪問看護ステーションはまな)
松 井 喜 恵 (湖西市訪問看護ステーション)
内 藤 加代子 (地域包括支援センター湖西白萩)
浅 井 恵 子 (ケアプランセンター陽菜)
稲 本 直 子 (サンシティーあらい)
安 間 明 美 (湖西市社協介護センターこさい)
山 下 いづみ (浜松市医師会 在宅医療推進員)

事務局

村 田 義 治 (健康増進課長)
佃 祐 子 (健康増進課 課長代理)
石 田 裕 之 (長寿介護課長)
藤 田 和 之 (長寿介護課 係長)
琴 岡 文 乃 (長寿介護課 主査)
白 井 まり子 (在宅医療・介護連携支援センター相談員)

2 会議次第

開会 挨拶

新年度委員紹介、委嘱状交付

議事

- (1) 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業実施内容について・・・資料1
- (2) シズケアシステム モデル事業について・・・資料2
- (3) 平成30年度の目標と取り組み確認について・・・資料3
 - ①情報調査・発信・集約～連携お助けブック～・・・ファイル
 - ②多職種連携研修日程と内容について・・・資料3①
 - ③住民への普及啓発内容について・・・資料3②
- (4) 在宅医療・介護連携支援センター状況報告・・・資料4
- (5) 湖西市高齢者プラン 重点事業について
- (6) 在宅医療介護連携推進事業 ホームページ立ち上げについて
- (7) その他

各委員より

次回検討予告事項

①在宅医療データベース調査項目

例)『死亡診断書作成数』追加：在宅医療湖西市実績として人口動態調査にて自宅死等の数値はある。実際湖西の医師（開業医）がどのくらいの看取りをしているか現状は不明。より湖西市現状がわかる看取りの調査をしたい。『死亡診断書作成数』を秋実施の在宅医療データベース調査にて項目追加したい等

②湖西市の『在宅医療・介護の現状と「強み」「弱み」の整理票』活用による検討（H29.9 協議会資料1 参考）

3 連絡事項

次回開催案内

次回9月6日（木）（又9月19日（水）、9月26日（水））予定

1 開会あいさつ	<p>伊藤会長) 只今より第 1 回在宅医療・介護連携推進協議会を始める。</p> <p>長寿介護課長) 出席お礼。今年度の介護保険業務も 3 か月が経過しさまざまな事業に長寿介護課として取り組んではい。湖西市におきましては皆様の協力を得ないといけない部分も多数あるかと思われる。後でお話しさせていただきますが、第 7 期の国の介護保険計画等で「在宅医療介護連携の充実」ということが重点施策として上げられている。</p> <p>本協議会が今以上に発展、前進していかなくてはならないものと確信している。</p> <p>皆様のお力を集結して着実に一步一步進めていきたいと思いますので今後もご協力をお願いしたい。</p> <p>新委員紹介 藤田委員、山下委員、松井委員。 委嘱状配布について説明。</p>
2 議事 (1) 平成 30 年度在宅医療・介護連携推進事業実施内容について	<p>(事務局説明 資料 1 参考)</p> <p>事業内容と取り組みと位置づけについて説明。</p> <p>国の資料に基づきア〜クは平成 30 年度には実施義務の項目となるが、湖西市はすべて実施。体制が整いましたので今後も内容を充実して行きたい。</p>
(2) シズケアモデル事業について	<p>伊藤会長) 次にシズケアのモデル事業について牛田委員。</p> <p>牛田委員説明 資料 2 参考)</p> <p>この後検討会議が開催され細かな話はその時実施。概要説明実施。</p> <p>関係者の情報共有ということでシズケアかけはしの情報システム利用した連携だがまだまだ進んでいないことが県医師会ではテーマになっている。</p> <p>そこを踏まえモデル事業の普及促進に向けて展開する話があり参加することになった。後で話をしますが、タブレット無償貸与ということが一つの目玉となっている。</p> <p>後は予算については、一団体 110 万円とのことでしたが満額で予算獲得できた。今年度中の予算はそれだけ獲得できている。事業は 3 年間。費用は月々千円かかる (利用料)。費用について細かな規定はある。湖西市 (湖西地区) でモデルチームを作って行っていきたい。今年度は軽めのケースで取り組み連携等を進めたい。</p> <p>伊藤会長) この件は後ほど細かな説明をお願いする。では次に平成 30 年度の目標と取り組み確認について説明をお願いする。</p>
(3) 平成 30 年度の目標と取り組み確認について	<p>(事務局説明 資料 3 参考)</p> <p>年度初めということで今年度の実施目標確認。3 本の柱を優先。</p> <p>1 つ目在宅医療情報調査・集約・発信について：そもそも湖西市の場合は情報自体が把握できていないという状況で最優先したもの。調査、まとめと公開、資料の中に各職種の役割・在宅医療の推計値等内容を盛り込んだ。その為の方法としてワーキンググループを立ち上げて最終的には『お助けブック』作成。この協議会の他、ワーキンググループで毎月一回開催。</p> <p>お助けブックは夏ごろこの協議会の終わった後発信予定。</p> <p>2 つ目専門職及び行政への在宅医療の理解向上。多職種連携研修は年 2 回以上行う。</p> <p>3 つ目市民の在宅医療・介護への認知と理解向上。年に 1 回以上の講演会開催を予定。</p>

(3) 平成30年度多職種研修内容について

伊藤会長) それでは多職種連携研修日程と内容について塩野委員より説明

(塩野委員説明 資料3①)

昨年度に引き続き伊藤会長と日程調整した。今年度も開催する。今年度の実施概要ですが在宅医療・介護関係者への研修会企画実施、在宅医療・介護関係者の顔の見える関係構築。グループワーク、交流会を開催予定。あとは情報提供をするということで研修会は3回、交流会1回、11月に開催を予定。研修会日程は資料の通り予定。交流会は11月に開催検討中。細かな内容は今後検討。湖西市内の職種の方に参加していただいて交流を深めようと考え中。

研修会内容に行政説明。3回とも一番最初に行政説明予定(現在の在宅医療介護と連携共有など)。ワンポイント情報としてメーカーさんなど在宅医療介護の情報をまとめたもの等ある、こういった研修会等でワンポイント情報として提供してもらうのもよいのではないかと意見もあり導入検討中。5分位で話調整。第1回のメインの講話は在宅介護、医療職など今までいろんな職種の方にしてもらっているがまだどういった事をしているのか等話していない職種があるため今年度はこの職種のかたにどんな仕事をしているのかをお願いしたい。どういったところで連携ができるのかなど情報発信しお話しいただきたい。9月開催なのでできれば今日のうちにこの場で決めたい。

2回、3回も同様に最初に行政とメーカー等の説明を同じようにしてもらい、具体的には講話は湖西市の在宅生活「退院支援の現状」と「在宅から包括病棟入院と退院の現状について実際の退院連携についての講話とグループワークを行い連携や在宅生活について考えたい。講話の依頼は湖西病院と浜名病院さんの連携室(支援室)でお願いしたい。

3回目については今年度の1回、2回の研修会を通しながら進み具合によって内容を決定したい。

伊藤会長) 主な日程は説明の通り。講師についてここに書いてある職種・本日参加委員の方から発表してもらいたい。ケアマネは内藤委員どうか

内藤委員) 包括と居宅ケアマネということで浅井委員と一緒に行う。

伊藤会長) 願する。グループホーム等は稲本委員どうか。

稲本委員) 私は小規模多機能と兼任となっている。

伊藤会長) 取り組んでいることや今後取り組みたいことを話してもらってもいい。話題としての「認知症カフェについて」なんかもいい。

稲本委員) 了承。

伊藤会長) 社協はどうか。

安間委員) 社協の仕事として「介護保険サービスの全体の在宅サービスについて」なんかも話をさせてもらう。

伊藤会長) では、以上4名の方をお願いする。演題と発表者を連絡してもらう。

塩野委員) 実際どのくらいの時間になるかはまた連絡する。メーカーの情報提供だが、今の段階でどういう内容がいいか考えたい。希望あるか。数社相談。話題の内容として認知症を専門にしている人が今動けそうだというので1社から聞いている。その他今全国的に話題となっていること施策で始まっている地域のこと等の内容も話していただけるのではないかと。

山下委員) 念のためお聞きするが施策ですか治療とかの話か?

塩野委員) 要望に応じて話していただけたらと思う。話題となっている施策で始めている他の地域もあるのでそういうところを持って話していただけたらと思う。どういう内容にするかはこちら次第になる。

<p>(4) 平成 30 年度市民普及内容について</p>	<p>伊藤会長) 各メーカーがそういう情報を持っているということか。</p> <p>塩野委員) こちらがどういう内容がよいかということになる。</p> <p>山下委員) 念のためだが、公の事業だがメーカー色が出て新しい情報提供であれば問題ないということではいか。</p> <p>伊藤会長) メーカーの宣伝や利益になるようなやり方はいけない。</p> <p>塩野委員) もちろんそのように。商品メーカーの宣伝にならないようにする。</p> <p>伊藤会長) 期限迫っているので発表者と連絡を。身近な話題提供してくれるならいい。質疑応答があつて反省会も含め一時間か半程度位。最初の研修はそうになる。よろしく願いたい。</p> <p>(牛田委員より資料 3 ②説明)</p> <p>牛田委員) 前回意見(アンケート)出してもらいそれを基にテーマを決めた。2 月中に講演会。内容としてかかりつけ推進の他、講演会テーマは資料の①(看取り)または②(訪問看護)で決めた。</p> <p>山下委員) アンケートとは？</p> <p>牛田委員) 協議会でいっぱい意見が出た物をまとめた。意見集約しこのテーマ 2 つ出した。今年度は一回の開催。テーマおよび講師を決めたい。</p> <p>伊藤会長) 100 人程度の募集か。事前に何名とするか。前回は予想以上の申し込みがあった。</p> <p>事務局琴岡) 認知症の講演会は確かに応募者多数でお断りしたことはあった。席数はおぼと 100 席、新居ふれあいセンターは 120 席程度。</p> <p>山下委員) 前回もれた口で悔しい思いをした。同じテーマは 2 回実施はどうか。</p> <p>牛田委員) 前回(応募者多数の講演会)は認知症施策の事業として実施した講演会。同じ内容プラス自動車免許についての講演を 1 月に予定。それとは別の在宅医療介護についての講演実施し市民に対してどのようなテーマを持ってくるかについて意見をもらいたい。</p> <p>伊藤会長) 市民に対して「死に場所を選ぶ」というテーマはタイトでかなりきつい。終末ノートの使い方とか看取りという大まかなテーマの中で何と何を住民に伝えていけばいいのかなという視点の中で決めたい。</p> <p>牛田委員) なかなか具体性がないと大変で難しいかもしれないが、施設の看取りや自宅の看取りで考えるとエンディングノートの内容がある。中東遠が進んでいるので講師依頼し講演していただくことも考えられる。加えて見取りに関する内容説明等の話の 2 本立ても考えられる。あとは訪問看護の場合だが、協議会メンバーから講師たてて訪問看護や介護の説明や、事例(失敗例当)をあげ講演してもらう案。</p> <p>伊藤会長) 在宅の対応ですね。1 つのテーマがエンディングノートの具体的な活用。取り組んでいる地域に願います。もう 1 つのテーマが、重くなるが看取り。実際こういうことをやっていて最後こうしたら良かった。楽しかったよ。～は良くなかったなど事例もいい。施設での事例。いろんな意味での事例。市民が明日から準備しなくてはいけないと思うような。</p> <p>藤田委員) 在宅医療に関し一般市民へ啓発講演会はいつごろからは始めているのか。内容はどんなものか。</p> <p>伊藤会長) 27 年度頃大飯原発の近くの医師に来ていただき在宅で安心して暮らしていくという方法について実施した。「自宅で大往生」というテーマで行ったことがある。</p>
-------------------------------	---

藤田委員) 3年前ですね。 何回かやっていて今に至るわけではないとすると、3年空いている。今後につながっていく内容になるので、在宅で亡くなることをテーマにするのではなく、『在宅で安心して暮らせる方法』をテーマに情報提供していった方が対象者も広いので非常に馴染みやすいのではないかと。

伊藤会長) 在宅という対象は広い、在宅で暮らすこと

山下委員) 普及啓発が主でいいですね。テーマとしてどんな知識を普及啓発する必要があるか、住民普及というとはどんなイメージで捉えているのか知りたい。

松井委員) 実際訪問看護していると、訪問看護・訪問介護・介護保険制度自体も知らない人も大勢いる。そのため、いきなり訪問看護と訪問介護の違いといっても分からないと思う。保険料は払っているけど実際どんな制度が使えるのかなどにしてはどうか。

山下委員) 住民に理解してもらうため何か言葉的にインパクトがあるような内容がいいか。

内藤委員) ターゲットが広すぎる。今意見がでたが介護保険知らない人もいるが知ってる人もいる。包括に関わる人は普及しているし皆知っている。団塊の世代が予防的なことも踏まえて例えばエンディングノート等終活をイメージして行っていくのか、介護されている人や介護されている人向けか、介護する側かなど、対象があまりにも広い。基本は在宅生活。施設の看取りは入れなくていいのではないかと。在宅生活をメインにし、対象をしばつたらどうか。高齢者の方に事前に介護保険を伝えてもわからない。その都度必要な時に伝える必要がある。看護師と介護士が行う服薬管理の違いが判らない。他にターミナルの例もある。これは対象が若い。だから難しい。

伊藤会長) 介護する側される側等対象をわけのべきか。

内藤委員) シリーズで実施はどうか。今回はこの対象など。対象により日時変わる。難しい。

牛田委員) なかなかまとまらないが、本日決めなくてもいいか。

事務局) 2月実施とのことなので、まだ時間はある。

伊藤会長) 湖西の方が介護等で知りたい求めていることは何か考える方向か。

事務局) 改めてだが、この市民普及に関し年度末に委員の皆様にご意見をもらった。様々な意見があった。看取りの体制が整っていないが看取りをテーマにするのはもう少し後がいいのでは等々。しかし実際在宅医療を受けている方・看取っている方もいる。自宅や施設の看取りについて、まずはその事例を知ってもらってはどうかとのことで看取りをテーマにとの意見が多く集まった。そのため案①が資料に出ている。まずはきっかけ投げかけを行う考えのものと案②は在宅で暮らすために何をどうするかわからないので、まずは訪問看護や介護の情報を投げかけて在宅で生活するをテーマに実施。そこから次に必要な内容テーマにしていく考え。意見を集約した結果2案提示となったが、時間はまだあるため本日決める方法と次回にまた案を提示し意見を聴く方法どちらも可能。

伊藤委員) 浜松の状況を知っている山下委員どうか。浜松はパンフレットを配っているようだが。

山下委員) 配布するだけでは意味がない。住民普及は行政の仕事で行っている。行政義務がある。毎年市民講演会等実施。医師会が数か月に1回新聞等で医師会医師が健康講話を実施。今国の流れで看取りは重要テーマの位置づけがある。大きなテーマだが旬なテーマではある。新聞社が政令指定都市を対象に看取りの調査を実施した。あとは看取りではないどういう表現をするか。

伊藤会長) 看取りなどの事業・関係者側からの説明表現でなく、自分が看取りをするときにどういった準備が必要かなどの視点が必要とのことですね。

	<p>山下委員) 今浜松の在宅の医師たちも頭を悩ませている又在宅の学会等で課題になっているのは意思表示ははっきりしていない方の救急対応。看取りを希望されているのか助ける処置をすべきなのかなどが、救急現場(医師)にとってはジレンマのある内容。救急医師と在宅医師の違いがある。議論になるところ。「救急医療の現場どう生きるか考える」などの切り口もあるか。</p> <p>伊藤会長) いろいろな社会情勢を取り上げる方法もある。確かにおもしろい。たしかに認知症の方だと本人の同意が必要だがもらえないケースもある。どう考えるかも議論であるのでそういった具体例を持って市民に伝える方法もある。一人暮らしや認知症等々方の同意をどう考えるかどうかどうもうかの問題もある。市民の側から見ての視点で内容を考える。</p> <p>内藤委員) 市民の方は皆 ぴんぴんころり の死に方を教えてほしいとよくいわれる。人に迷惑をかけたくないからと。看取りは介護する側等の視点。本人から見ると違う。死に方やエンディングノートは本人側の視点。</p> <p>藤田委員) どこをターゲットにするか。自分が介護受ける立場の人か、介護を提供する側の人か等。</p> <p>内藤委員) 全般であれば、「在宅医療」とか。</p> <p>松井委員) 訪問看護でいえば、医師がいて初めて実施となる。在宅で暮らすという内容ならば、医師を中心に医師の動き等の話をしていた方がいいのではないかな。</p> <p>伊藤会長) 住民の側にたって、医師の関わり訪問看護介護等他職種でチームを組んで関わりますという話になるか。劇でもあればおもしろい。</p> <p>浅井委員) 話より劇はとて面白いと思う。分かりやすい。</p> <p>伊藤会長) まあそれはもっと大きいところで……。まずは他職種がいるので住民の側にたって説明をしていく方法を考える。</p> <p>牛田委員) ではどうするか。今決めるか。</p> <p>事務局) 大変たくさんのご意見をいただいた。「安心して暮らすための情報提供」や話題になっている「看とり」の視点のものと等を再考し医師会と検討の上次回に提示する方法でいかがか。</p> <p>伊藤会長) では今のテーマは持ち越しにする。</p>
(5) 在宅医療・介護連携支援センター状況報告	<p>(事務局白井より資料4説明)</p> <p>設置3カ月経過し状況と今後の報告。協力をいただき実施をする。</p>
(6) 湖西市高齢者プラン 重点事業について	<p>(事務局石田より資料説明 高齢者プラン概要)</p> <p>重点事業について説明。</p>
(6) 在宅医療介護連携推進事業 ホームページ立ち上げについて	<p>事務局) 連絡。市のホームページに事業内容等掲載。研修会の案内等さまざまな内容掲示。多くの専門職への周知をお願いする。掲載内容等ご意見もあれば連絡いただきたい。</p>

(7) その他

伊藤会長) 在宅在宅医療介護連携支援センター長い名前だが、浜名病院鈴木委員からご意見はあるか

鈴木委員) 浜名病院職員内や前回連絡会(連携支援センターの連絡会)で連携支援センターの名前が長いと意見が出た。地域包括支援センター・地域包括ケア病棟などいろいろ紛らわしい。そこでなにか愛称があったらどうか。

伊藤会長) いま愛称をつける提案をしていただいた。愛称を募集したいと思うがいつまでがよいか。事務局) では、目指す姿を決めたときのように、多くの意見アイデアを出していただき、次回の協議会で投票というか形で決めるのはどうか。

伊藤会長) ではその方法で。ちなみに、他で使用している名前はつかえ避ける。浜松はつむぎ。”つむぎ”は使わない。

山下委員) 他”つながり”なども使っている。意外と必要な愛称は使われているかもしれない。このほか精神等の相談センターの愛称(みなづき)もある。

事務局) では、市内の施設愛称等調べ意見用紙配布の際まとめたものを配布する。

山下委員) ちなみに”みなづき”の由来はなにか。なにか湖西市で統一事項があるのかもしれない

伊藤会長) では愛称意見を募集するので願する。では次回予告・次回開催について説明を。

(事務局にて次第記入の次回予告・次回内容について説明)

事務局) 次回日程案提示。9/6木、9/19水、9/26水を候補 都合が悪い場合日時がある場合来週中に事務局へ連絡いただきたい。また会長と相談後連絡をする。

※研修会案内の情報提供

伊藤会長) では、在宅医療・介護連携推進協議会を終了する。お礼。